

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【滋賀県】 学校名【滋賀県立甲南高等学校】

【滋賀県甲南高等養護学校】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	全校生徒 保護者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (人権教育講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	健常者で生まれ社会人になり突然の事故で障がいを持ち、その障がいを乗り越えパラトリアスロン選手として活躍し、さらに2020東京パラリンピックを目指している宇田選手の「生き方」を学ぶ。学力面や障がいを持っている事で自尊心が高められない生徒たちが多い両校で、宇田選手の突然の生活環境の変化を克服し、さらにその状況から「夢」に向かって努力することで「夢」が現実になることを学ばせたい。
5 取組内容	日程 13:40～ 集合・挨拶・講師紹介(校長) 45～ 講演 VTR等によるパラトリアスロンの紹介 生い立ち、競技用自転車の紹介等 14:45～ 質疑応答 15:15～ お礼の言葉・花束贈呈(人権委員長他2名) 15:25 終了

<p>6 主な成果</p>	<p>宇田さんが一目で分かる障がいを持っておられることに本校生徒や高等養護学校生徒にはインパクトがあり、生徒も状況が理解できて話に入りやすかった。そしてパワーポイントでの視覚からの映像も加わり、生徒たちは熱心に聞き入っていた。</p> <p>パラリンピックやパラトライアスロンについて多くの生徒たちは聞いたことがあるという程度だったが、この講演会でよく理解できたと思われる。また、練習用バイクの試乗や質問時には生徒が挙手するか心配していたが多くの生徒たちが手を挙げて宇田さんの思いに応えていた。</p> <p>事後の感想文では、宇田さんの事故後の回復力や常に前向きにポジティブに考えておられること、人とのつながりの大切さ、家族を大切にすることなどが印象的だと多くの生徒が書いていた。本校は学力に課題があり、小、中学校と自尊感情が低い生徒が多い。高等養護学校も同様である。今回の講演で宇田さんが事故で右腕を失った事でそのハンディをマイナスに考えずに常に前向きな姿勢が生徒たちに共感でされ、「宇田さんのように前向きに生きていこうと思います」というような感想が多くあった。家庭的に問題のある生徒、低学力の生徒、特別支援の必要な生徒など様々な生徒がいる中で、宇田さんの前向きなお話は大変「元気」がもたらされたと思われる。</p> <p>今まで様々な講演会を実施してきたが講演会後に、多くの生徒が控室の校長室にきてサインや写真を求めたことはあまり前例のないことであった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>今回は人権教育の一環で行った。人権委員会を中心に講演会に向けて掲示用のポスター・新聞制作から当日の司会進行も行いムードを高めた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>2020 年東京オリンピック・パラリンピック教育に向けて今回の事業をきっかけに継続して行いたいので、体育科と連携したいと考えているがカリキュラム等の関係で難しい。</p> <p>また、今回は講師料の補助があり実施できたが、本校のような小規模校では生徒から集めることも困難である。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>現在検討中</p>



トライアスロンの説明



生徒の試乗



人権委員長・副委員長からお礼と花束



講演後に生徒たちからサイン攻め



人権委員作成した壁新聞



人権委員が作成したポスター